

海外巡礼地調査報告

Ⅱ 2009年度イタリア巡礼地調査

調査概要

愛媛大学法文学部教授
山 川 廣 司

最初に、3カ年にわたって愛媛大学研究開発支援経費[COE育成支援研究]の交付(平成19年度～21年度)を受け、ヨーロッパの巡礼地調査(平成19年度、サンティアゴ巡礼路調査:平成20年度フランス巡礼地調査:平成21年度イタリア巡礼地調査)に内田九州男教授他と出かける機会を与えていただいたことを関係各位に感謝したい。我々は巡礼を専門に研究しているわけではないが、この機会に多くの史蹟や資料を見聞・収集することができ、アルバムに整理した膨大な量の写真やパンフ類は数十冊に達する。貴重な財産を得た(掲載した写真は筆者撮影)。

ここでイタリア巡礼地調査の概要について説明したい。図1は日程表である。

まだ調査から一ヶ月ちょっとしか経っておらず、写真の整理も終わっていないので、かなり中途半端な報告になるかと思うので、その点はどうかご容赦いただきたい。

図2は北イタリアの地図である。場所の確認に利用していただきたい。12月6日から12月13日までの7日間の日程で、訪れた都市はローマとミラノの2箇所だったが、今回はバス・地下鉄・トラム(市電)といった公共交通機関をフルに活用して、あちこちの巡礼に関連する史蹟・教会を出来るだけ多く調査したいという思いで巡った。教育学部の矢澤知行先生は山登りなどをされるので方向感覚も抜群で、交通ルートを選択も適切で、今回は内田先生と私は後からついて目的地に着くといった具合で、非常に効率良くまわることができた。またローマとミラノの都市間はフランスのTGV並のハイスピードを誇るイタリアの新幹線ユーロスターで景色を楽しみながら移動することができ、快適であった。

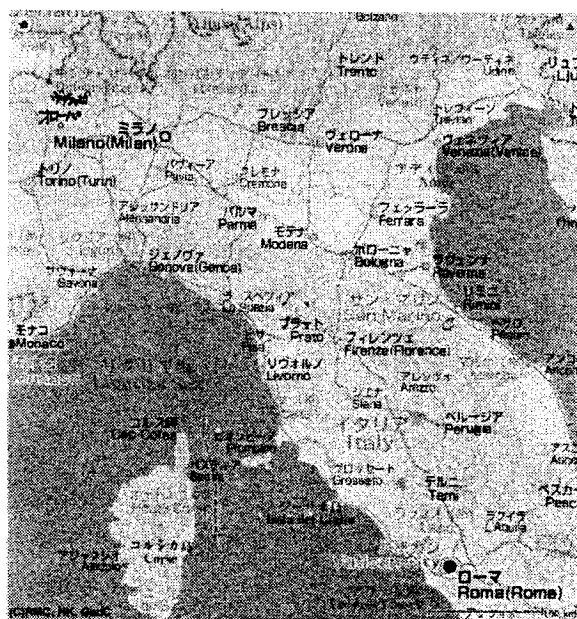


図2 北イタリア地図(出典: <http://map.yahoo.co.jp/>)

北イタリアでは、今回はミラノを拠点にして、私自身も知らなかったが、ミラノ近郊にあるヴァラッロとオローパという巡礼に関係した場所を訪れることができた。

ところでヨーロッパ中世の三大巡礼地はイェルサレム、ローマ、サンティアゴ・デ・コンポステーラといわれている。そしてローマ巡礼という場合は、私はイエス・キリストの一番弟子であった聖ペテロが布教活動後、逆さに十字架にかけられて殉教し、その遺体の上に建てられたサン・ピエトロ大聖堂に参詣することだと思っていた。ところが浅香正氏の「初期ローマ教会の形成と巡礼」(『季刊文化遺産 特集ローマ古寺巡礼』Vol. 17, 2004年)によれば、実

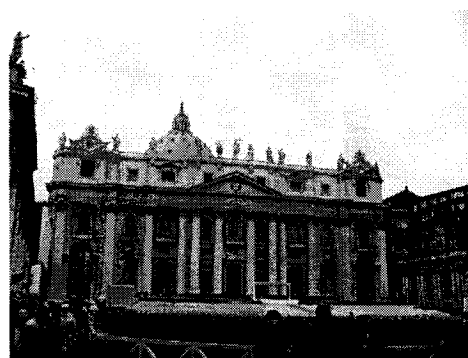


図3 ローマのサン・ピエトロ聖堂

図1 イタリア巡礼地調査日程

日	月/日	都市名	時間	交通機関	日 程
①	12月6日	松山空港 羽田空港 成田空港 ローマ	08:10 09:25 14:20 16:30 22:45	JL1460 AZ0785	松山空港から羽田空港へ リムジンバスにて成田空港へ 成田空港からローマへ（4時間遅発） ローマ・フィメチーノ空港着（タクシー） ホテルパラディウムパレス（01:10） 【ローマ泊】
②	12月7日	ローマ			ローマ 巡礼地調査 テルミニ駅（メトロA）→サン・ピエトロ聖堂→サンタンジェロ城→バンテオン→ナ ボナ広場→アルジェンチナ遺跡→ティベリナ島（バス23）→ピラミデ駅（メトロB） →サン・パオロ・フォーリ・レ・ムーラ聖堂（メトロB）→ポリクリニコ駅 （トラム3）→サン・ロレンツォ・フォーリ・レ・ムーラ聖堂（トラム3&バス40） →サン・ピエトロ聖堂（バス40）→テルミニ駅 【ローマ泊】
③	12月8日	ローマ			ローマ 巡礼地調査 テルミニ駅（メトロA）→サンジョバンニ駅（バス218）→サン・セバステア ーノ・フォーリ・レ・ムーラ聖堂→サン・カリスト・カタコンベ（バス218）→サン・ ジョバンニ・イン・ラテラーノ聖堂（バス3）→サンタ・クローチェ・イン・ジェル サレンメ聖堂→国立楽器博物館（バス3&トラム5）→サンタ・マリア・マッジョ ーレ聖堂 【ローマ泊】
④	12月9日	ローマ	13:30 17:30	TGV9940	ローマ 巡礼地調査 テルミニ駅（メトロB）→コロッセオ・コンスタンティヌス凱旋門フォロ・ロマーノ （パラティーノの丘）→ホテル→テルミニ駅 ローマからTGVにてミラノへ→ミラノ中央駅→ホテルイビスチェントロ 【ミラノ泊】
	12月10日	ミラノ		専用車	ヴァラッロ&オローバ 巡礼地調査（運転手・ガイド付ボンゴ車） ヴァラッロ/サクロ・モンテ（イエルサレム巡礼の写し巡礼地） サンタ・マリア・デレ・グラッツェ教会→（ロープウェイ）バシリカ→オローバの 聖堂 【ミラノ泊】
	12月11日	ミラノ			ミラノ 聖堂・教会調査 レプブリカ駅（メトロ3&1&2）→ナヴォリオ運河→ティチネーゼ門→サンテ・ウス トルジョ聖堂→サン・ロレンツォ・マッジョーレ聖堂→サンタンブロージョ聖堂→ サン・マウリツィオ教会（考古学博物館・休館）→サンタ・マリア・デッレ・グラ ッツェ教会→カドルナF.N.M駅（メトロ1&3）→レプブリカ駅→ホテル *ミラノ大学大学院生佐藤仁美さんと情報交換 【ミラノ泊】
	12月12日	ミラノ発	19:30	AZ7786	ミラノ 博物館・聖堂・教会調査 レプブリカ駅（トラム1）→スフォルツェスコ城・博物館→ガッレリア→スカラ座→ ドゥオモ（メトロ3）→レプブリカ駅→ホテル（トラム5）→ミラノ中央駅（リムジ ンバス）→マルペンサ空港 ミラノから帰国の途へ 【機内泊】
	12月13日	成田空港 羽田空港 松山空港	15:30 19:15 20:55	JL1474	成田空港到着後リムジンバスにて羽田空港へ 羽田空港から松山空港へ

はローマの中で主要な四大聖堂（サン・ピエトロ大聖堂、サン・ジョヴァンニ・イン・ラテラーノ聖堂、サンタ・マリア・マッジョレ聖堂、サン・パオロ・フォリ・レ・ムーラ聖堂）を含め七巡礼聖堂（上記四聖堂に加え、サンタ・クローチェ・イン・ジェルサレム聖堂、サン・ロレンツォ・フォリ・レ・ムーラ聖堂、サン・セバスティアーノ聖堂）を巡るとというのがローマ巡礼にあたるということを知った。そしてこの機会にこの7箇所を巡りたいということが第1の目的であった。次に第2の目的が私たちに馴染みのない地名だが、前述のピエモンテ州のヴァラッコとオローパの現地調査であった。

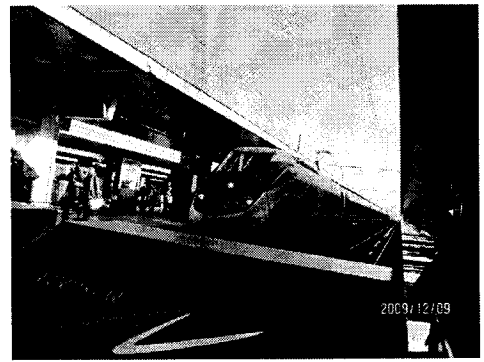


図4 ユーロスター（テルミニ駅）

ミラノの北方のマッジョーレ湖の近辺に位置するのがイェルサレム巡礼の写し巡礼地ヴァラッコのサクリ・モンティ（Sacri Monti聖なる山々、サクロ・モンテの複数形）である。また県都ヴィエッラからさらに西に向かって山を登って行き、その奥まったところにあるのがマリア信仰（Beata Vergine）の巡礼地オローパである。これらの地には16世紀後半から17世紀にかけてキリスト教徒の巡礼のために山の斜面に多くの礼拝堂や聖堂が建てられ、ヨーロッパ各地から巡礼者が訪れた聖地であった。今回はこの2箇所を巡った。

また6日目のミラノ市内では、地下鉄、トラム等を利用して、巡礼調査というよりはミラノ中心地の教会施設をまる1日をかけ巡った。まず最初に街の南に位置するナヴィリオ運河から調査をはじめた。南のティチネーゼ門から北上してサンテ・ウルストジョ教会、コリント式の列柱とコンスタンティヌス像が教会前に配されているサン・ロレンツォ・マッジョーレ教会、ミラノの守護聖人アンブロジヨ大司教が祀ってあるサントンブロージョ聖堂、レオナルド・ダ・ヴィンチの「最後の晩餐」で有名なサンタ・マリア・デッレ・グラツィエ教会を巡り、最後に、14世紀にミラノ領主ヴィスコンティ家によって建築が始まった、壮大なゴシック様式で天を突き刺す無数の尖塔の壮麗さで圧巻であるドゥオーモに詣でた。そして最終日は14世紀にヴィスコンティ家によって建てられ、15世紀にスフォルツァ家によって改造された要塞と居城を兼ねたスフォルツェスコ城の博物館でミケランジェロ作のロンダニーニのピエタを堪能した。日程の5日目に訪れたヴァラッコとオローパは交通の便が悪いので、特に専用車をチャーターし、現地ガイドと日本人ガイドの通訳を頼んで回ったが、これらについての紹介は矢沢先生の報告に委ねたい。



図5 オローパの聖域全景
（ガイドブック表紙より）



図6 ティチネーゼ門



図7 サンタ・マリア・デッレ・グラツィエ教会
左手が「最後の晩餐」食堂入口。



図8 サンテ・ウストルジョ教会



図9 サンテ・ウストルジョ教会内部



図10 サン・ロレンツォ・マッジョレ聖堂前のコンスタンティヌス像



図11 サン・ロレンツォ・マッジョレ聖堂内部クーボラ



図12 サントアンブロージョ聖堂



図13 サントアンブロージョ聖堂身廊



図14 ミラノ・ドゥオモ



図15 スフォルツェスコ城